

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第74号(2013. 5. 1)
事務局川西地区自主防災会

新任のご挨拶 ～香川県危機管理総局長 松尾 恭成～



このたびの人事異動で、危機管理総局にまいりました松尾でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

岩崎会長様をはじめ「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様には、「共助」の要として防災・減災に向けた先進的な取組を行っていただいております。誠に有難うございます。

危機管理総局は、東日本大震災を踏まえ、県の危機管理体制を強化するため、昨年4月に設置されましたが、最大の課題は、南海トラフの巨大地震とそれに伴う津波、液状化対策です。2年前に発生した東日本大震災は、我が国に甚大な被害をもたらしましたが、国が公表した南海トラフの巨大地震の被害想定では、マグニチュードは

東日本大震災並みの9.0ですが、死者数は約13～40万人、被害額は約220兆円と、東日本大震災をはるかに上回る規模になっています。それと同時に、今後、防災対策を推進することにより、例えば津波による死者数は約8割減少するなど、防災対策の効果も掲げられています。

県では、国の被害想定を基に、今年の3月に、震度分布、津波浸水域などについて、県独自のより詳細な被害想定を公表しましたが、最悪のケースでは、最大震度が6強～7、浸水面積が約70平方キロメートルとなるなど、従前の想定を大きく上回るものとなっています。

その内容は、大きく報道されたことから、皆様もご承知だと思いますが、県では、今後、人的・物的被害の想定を今年の夏頃に公表するとともに、市町や自主防の皆様と連携しながら、引き続き様々な対策を講じていくことにしています。



香川県地震・津波被害想定（第一次公表 H25.3.31）
最大クラスの地震が発生すれば、高松市の中心部も広く浸水するおそれがあります。

南海地震は、今後30年以内の発生確率が60%程度と評価されており、今発生してもおかしくないという状況です。また、東南海・東海地震と連動することにより、先程述べたような甚大な被害をもたらす可能性も否定できません。

災害の発生そのものを防ぐことはできませんが、「正しく知り」、「正しく判断し」、「正しく行動する」など、災害の特性を正しく理解したうえで、十分な準備と対策を行うことで、被害をかなり軽減できることも間違いありません。ただ、それには行政の力だけでは限界があり、災害発生時の被害を軽減するためには、自らの身は自ら守る「自助」、地域の安全を地域の住民が助け合って守る「共助」、行政による「公助」が連携・協働することが極めて重要あり、皆様方自主防災組織の活動は、「共助」の要として大変重要な役割を担っています。



自主防災組織結成・活動の手引き（H25.3）

県では、この自助・共助・公助の連携を基本理念として、南海地震に限らず各種災害に対する防災対策に取り組んでいますが、地域の方々の日頃の訓練等の防災対策が、いざ災害時には、必ず大きな力となって難局を乗り越えることが出来ると考えています。このため、県では、昨年度から、小学校区単位等での実践的な訓練などに支援を行う「自主防災力強化事業」をスタートさせたほか、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のご協力をいただきながら、新たに、これから取り組まれようとする方々向けの冊子「自主防災組織結成・活動の手引き」を作成しました。

さらに今年度からは、自主防災組織の未結成地区や活動が活発でない組織を対象とした「自主防災活動・結成促進フォローアップ事業」を皆様方「かがわ自主ぼう連絡協議会」にお願いして実施することにしています。

今後とも、共助の中核を担う自主防災組織の皆様方と力を合わせて防災対策を推進してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、「かがわ自主ぼう連絡協議会」のますますのご発展と会員、ご家族の皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

新任のご挨拶

危機管理総局危機管理課政策主幹(兼)副課長 秋山 浩章

この度の人事異動により政策主幹(兼)副課長を務めることになりました。もとより、微力ではございますが、本県の危機管理行政の推進に精一杯取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

就任間もない4月13日に、淡路島付近を震源とする地震が発生し、県内でも大きな被害はありませんでしたが、災害対策の必要性を再認識いたしました。

県では、これまでも南海地震等をはじめとした災害に備えるべく、防災・減災対策に全力を傾注しており、とりわけ、地域防災力の向上は重要な要素と考えております。

県としては、引き続き組織の結成促進や対応力の充実強化を図ってまいりますので「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様には、格別のご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、協議会の益々の発展と関係者の皆様方のご健勝と、より一層のご活躍を心から御祈念申し上げ、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

危機管理総局危機管理課防災指導監 増田 恭士

はじめまして。4月3日付けで、香川県に危機管理課防災指導監として新規採用されました増田と申します。前職は、陸上自衛官であり、約37年間の自衛隊勤務を定年退職し、前任の乃田氏の後任として勤務させていただくことになりました。

自衛官としての経験を活かし、また皆様のご支援を受けて、微力ながら郷里の香川県のお役に立てるように、新たな気持ちで励む所存です。

香川県では、近い将来に南海地震の発生が危惧されており、また、過去、風水害及び山林火災等の災害が起きています。これに対して、防災計画、防災訓練、自衛隊との連携及び啓蒙活動等、幅広く県の防災・危機管理、すなわち県民の安全に関わらせていただくことに身の引き締まる思いです。

防災の第一は、個人・地域の防災力としての「自助」、「共助」です。それを担う「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしますとともに、協議会のますますのご発展をお祈り申し上げ、私の新任のご挨拶とさせていただきます。

危機管理課副主幹 植松 隆

・このたび、危機管理課へ配属となりました植松と申します。今後とも「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

危機管理課副主幹 渡邊 篤志

・このたび、危機管理課へ配属となりました渡邊と申します。今後とも「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

危機管理課主任 高橋 大

・このたび、新規採用で危機管理課へ配属となりました高橋と申します。今後とも「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

危機管理課主任 重松 良

・このたび、危機管理課へ配属となりました重松と申します。今後とも「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

かがわ自主ぼうの事務局より、最近の活動を紹介します。

4月17日(水)サンポートホール高松において、四国防災危機管理特別プログラム開設記念講演会が開かれ、「災害対応に必要な日常連携とネットワーク」と題して、防災の学識者として、日本一と言われる河田恵昭先生の講演があり、特に会員の皆様にお伝えしたく、次にまとめました。

東日本大震災の教訓

- ・ これからも想定外の災害は起こる。
- ・ しかし、「想定外」の被害を発生させてはならない。
- ・ そのためには、「最悪の被災シナリオ」を視野に入れた災害対応を視野に入れておかなければならない。
- ・ 長期的、継続的な取り組みによってしか、被害軽減、被害抑止は期待できない。

南海地震の発生の時期・・・？

- ・ 昭和の南海地震発生前、40年間にマグニチュード6以上の強い地震が10回発生した後に発生した。
- ・ 次の南海地震の引き金は、1995年の阪神・淡路であって、その後、18年間にマグニチュード6以上の強い地震がすでに6回発生しており、3年に1度の割合、歴史通りと考えればあと4回発生後、南海トラフが大きく動くことになり、そう先のことでない。

耐震診断、耐震改修の補助額がアップ

①耐震診断
9万円を限度に補助
(耐震診断に要した費用9/10)

②耐震改修
90万円を限度に補助
(耐震診断に要した費用×1/2)

◎住宅の要件等

- ・ 昭和56年5月以前に建てられた住宅であること。
- ・ 一戸建て又は長屋建てであること。 ・ 申請者が住み、持家であること。

◎関連事項

- ・ 耐震改修のための設計費用も補助対象となります。
- ・ 耐震改修工事を行った場合は、固定資産税や所得税の優遇措置があります。

※お知らせ 県では、各自主防災組織等の訓練に活用いただくことを目的に「AEDトレーナーセット」を整備し、貸出をしています。

(問い合わせ先)

- ・ 県庁危機管理課 危機管理G 087-832-3242
- ・ 川西地区自主防災会 0877-28-5519

※各5セットずつ配置しています。ご利用ください。

